



# 人認NAVI

ーにんにんナビーと読みます。認知症になってもその人は、その人の人生の主演です。

Vol.11 (2009年12月日)

人格を認め、生き方を認め、今を認める。認知症は否定しないことから始まります。

## クリスティーン・プライデンさんが伝える

白杖の人と歩む手引あれば

無職

(神奈川県 70)

「白杖の人には肩・肘を貸して」(11月3日)を読みました。お見かけしたら何か手助けになればと思います。しかし、目の不自由な方が歩く際、歩幅と歩数で距離を計測していらっしやるのにそれを乱しては迷惑になることを考

えると、うまくゆきません。日頃、私は「一緒に歩むか?」と、まず、お声をかけるよう努めています。電車で席を譲ろうとした際、一度失敗したことがあります。この身近に、互いに支え合うための良い「手引」が必要だと思えます。障害を持つ方が周囲にいてほしいと、柄・方

法、決してしてほしくないことを、新聞やテレビで方々に楽しく説明されていたら、こうしたことを大人になっても分らないのを恥ずかしく思いますが、あえて言えばきちんと教わる機会がなかったのです。社会の中で習慣的にそのような「手引」を目にすれば、無関心な人も人への心配りの大切さが自然に身にこめられるのではないのでしょうか。

- 1. 正しい診断を受けたい
- 2. どれだけ大変かわかって欲しい
- 3. 尊重して認めて欲しい・支援と情報が欲しい
- 4. 将来の計画を手助けして欲しい
- 5. 心のサポートをして欲しい
- 6. 脳を使い続けることを手伝って欲しい
- 7. 心と魂にふれて欲しい
- 8. 聞き上手になって欲しい
- 9. レッテル貼りと無理解から解放して欲しい
- 10. 精神性を見つけて育てて欲しい



MIHO

人認NAVI BOX

ご活用下さい

## 認知症の人と歩む「手引」

白い杖をついた人々が、一人でも公共交通機関を利用したり歩いたりして外出している姿は珍しいことではなくなりました。様々なお知らせや表示が点字で示されているのも、もうお馴染みですね。「目が見えないという不自由さ」は、私たちにも体験できます。しかし、「目が見えない状態で生活する不自由さ」はなかなか理解できるものではないですよ。不自由なのは理解できるから助けてあげたい (o^o^o)・・・でも実は押し付けやおせっかいになっていることも・・・(´Д`)

さて、認知症の場合、「こうして欲しい」という気持ちを言えなくなっている人もいますし、言えるのに聞いてもらえないΣ (これが多い) 人もいます。クリスティーン・プライデンさんをご存知ですか?元オーストラリアのトップ公務員で非常に知的能力の高い方です。46歳で認知症と診断され、仕事は引退せざるをえませんでした。しかし、50歳で伴侶をみつけて再婚、その伴侶と3人の子どもたちに助けられながら2冊の本を執筆しました。認知症と共に生きる心、体、魂がどこに向かうか、家族や医療者、介護にあたる人々にどうして欲しいか、それらがものすごく\*冷静に\*知的に\*記されているのです。認知症の人が竹上にあるような10個の「~欲しい」という思いを持っていることが信じられないという人もいますのでは? **紛れもない事実です!!** クリスティーンさんは、知的能力がずば抜けていたので、考えを表現することができたのです。そして、社会の無理解をどうにかしなくては、という問題意識が強かったのです。そういう思いを拾い上げて現実にする手助けをするパートナーがいれば、認知症になっても未来に向かって歩いていけそうです。

なによりも、病気を告知されているというのは大きいと思いませんか?徐々にできないことが増えていく、言葉も失われていく、行動がおこせなくなる・・・そうなる前に、どうやって自分の人生をより良く生き、どうやって自分の人生の幕をおろすか。自分の人生の成り行きがある程度予測できてしまうのは悲しいけれど、だからこそ毎日を大切に生きることができるといえる面もあります

多くの認知症の方は、「言ってもわからないだろうから」と、自分の病気や障害について説明されることはありません。何もわからなくなって楽ね、と思われていたりします。

クリスティーンさんは著書の中で、私たち(認知症をもつ人)が「動揺したり攻撃的になったり怯えたりすること」について理由を説明し、お話しをする時にはこうして欲しい、という具体的な方法も述べています。最も伝えたいことは、「痴呆をもつ人々に対する差別に敏感になって欲しい」ということでしょう。この本は、「認知症の人と歩む手引き」だと思います。

テレビでも、雑誌でも、認知症介護の大変さはたくさん特集されます。でも、当人の大変さについては触れられないことがほとんど。すでに「認知症の人」の領域と「正常な人」の領域に分ける社会になっちゃってますよね。

想像力を使ってほしい 創造力を働かせてほしい 私たちの世界とあなたの世界を隔てている溝を またいで乗り越えてほしい 「私は誰になっていくの?」 「私は私になっていく」より引用 クリスティーン・プライデン著・クリエイツかもがわ

